NEWS LETTER

遊文通信

2015年1月発行

45

今年もTry and Error を繰り返し 成長して参ります

試行錯誤

2015年 ～飛躍の誓いを胸に

お取引先の皆様

いつも遊文舎に格別のご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。

皆様方のおかげで、わたくしども遊文舎は厳しい世相の中なんとか2014年度も越年することができました。例年のことですが、2014年度にも実に様々なことがございました。世の中にも、遊文舎にも。良いことも悪いことも、うまくいったことも失敗したことも。これらが肥やしとなり、数年後に大きな果実となるような日ごろの処し方を考え、考動に移したいと考えています。

遊文舎の経営理念は

私たち遊文舎は自立した社員一人ひとりが考動し、挑戦し、成長を持続することにより社会に貢献します

です。これは、会社は人の集合体であり、そこで働く人間一人ひとりが自発的積極的に物事を捉え、考え、挑戦、Try and Error を繰り返すことにより成長することで、会社そのものも大きく成長し、そこに関わるあらゆるステークホルダーの皆様の幸福に寄与できるという私どもの信念でございます。

遊文舎の行動指針は

関わる全ての人が楽しく幸福であるために、仕事は面白くやらなアカン！

です。これは、遊文舎となんらかの形で関わっていただいたあらゆる皆様に、関わってよかったと思っていただくことが私どもにできる究極の社会貢献ではないかという考えを言語化したものです。関わっていただいた方というのは、数ある印刷会社の中から私ども遊文舎をお選びいただいたお客様はもちろん、お世話になっている仕入れ取引先様、力を貸してくれている社員一同、そのご家族など全ての人々が含まれるのは言うまでもありません。

代表取締役
木原　庸裕

情報産業の一翼を担う者として、時代の激しい変化の中で時に舵取りの方向性に迷うことすらあります。特に働く人の多様な価値観を尊重し、企業との winwin の関係を構築するダイバーシテイ概念を、優秀な人材確保のむしろチャンスとして捉え、スタッフや取引先様との新たな関係を構築してゆくことは急務と考えています。

時流に流されることに甘んじることなく、したたかに変革を重ね飛躍を続ける想いを胸に、2015年も印刷会社として精一杯努める所存でございます。本年も遊文舎をどうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社 遊文舎

［大阪本社］
〒532-0012
大阪市淀川区木川東4丁目17-31
TEL：06-6304-9325（代）
FAX：06-6304-4995

［東京営業所］
〒113-0033
東京都文京区本郷3丁目29-10
TEL：03-5802-3815
FAX：03-5802-3816

http://www.yubun.co.jp/
E-mail info@yubun.co.jp

遊文舎のおしごと 第1弾 Windows

私たち Windows チームの主な仕事内容は「組版」です。
「組版」とは何ぞや？と思われる方も多くいらっしゃるかと思います。
そうなんです。私たちも日常、友人・知人・親戚などに説明するのに少しばかり苦慮するのです。

「組版」とは…簡単に説明しますと、お客様が Word や一太郎といった文書作成ソフトやワープロソフトでテキスト入力してくださった文字のデータを１冊の本や論文集に組み直す…という仕事です。

お客様から詳細な指示を頂くこともあれば、私たちそれぞれが本の中身（紙面デザイン）を決めさせていただくこともあります。

１頁に何文字×何行、柱はどうする？　ノンブルの書体は？　位置は？　本文の書体はこうして、見出しは何行にして、タイトルは少し遊んだ感じ？　それともカチッとする？　などなど…

本の内容に即した書体やタイトル周りのデザイン、さらに深く掘り下げて本を手にとるであろう方々の年齢層や性別を考慮することもあります。

「読みやすいものを作る」を念頭におきながら、真っ白な画面から紙面を構築していきます。

定型の形で進行する制作物もあれば、「見本組」という、数頁分を見本として組版することから始まるものもあります。案件によっては２、３点のデザインを提案させていただきます。自分のイチオシではないものが選ばれることも多く、少々自信喪失することもありますが、こればかりは好みの問題なので、仕方がありません。

とはいえ、自分の提案したものを気に入ってくださった時の喜びはとても大きいのです。

私たち Windows チームは、ほぼ活字表現の世界での仕事なので、傍目には非常に地味に見えるかもしれません。

狭い紙面の中で文字の大きさや形にこだわったり、たった一文字のズレさえも許せない…といった少々神経質な面も持ち合わせていますが、私たちは好奇心旺盛なメンバーが揃っています。

その好奇心に応えてくれるような「出会い」が日々の仕事の中であるのです。

仕事をしながらゆっくり制作物の内容を読み下すことはできませんが、進めるうちに自然と頭の中に内容が入ってきます。そんな中、いくつもの仕事を扱いながらも、その内容に強く惹かれる書籍や論文に出会うことがあります。その出会いをきっかけに、その事柄についてさらに知りたくなり、本を読んだり、実際にその場所に行ったりすることがあります。そんな出会いがあると、自分の知識欲も満たされ、この仕事をしていて良かったと思います。

著者の方々が専門的な方が多いため、新聞やネットなどからは得られない知識や考え方、物の見方を知ることができます。大仰かもしれませんが、少しずつ自分の引出の中身が増えていく気もします。

ときどき、完全に自分の興味の対象外や全く自分の理解の範疇を超える難解すぎる内容のものもありますが、それはそれなりに楽しめたりするのです。

私たち Windows チームの組版は本づくりに欠かせない「縁の下の力持ち」的役割を担っています。第一に求められる正確で緻密という側面は、マクロや XML という便利ツールを駆使します。

私たちが直接お会いすることはほとんどありませんが、原稿のやり取りの中ででもお客様の声やご希望などを感じとり、満足していただける本づくりをし、その中で積み重ねたものを自信とし、力とできるよう日々チーム内でも切磋琢磨し、研鑽していきたいと思います。　（制作部 TIARI）

● 編 集 後 記 ●

年が明けてから随分経ってしまいましたが、あけましておめでとうございます。
今月号よりシリーズ「遊文舎のおしごと」が始まりました。普段はお客様とお会いすることのないメンバーですが、なくてはならない縁の下の力持ちです。Windows はなんだか賢そうな人が多い（写真参考してください）と勝手に思っていたのですが、仕事しながら専門誌読んだり、普段から知的な文章に接しているとそういったオーラが出るのかもしれないですね！！　（おーえ）

今月の紙　スノーホワイト／(69.5kg)